

## 森林所有者の世帯構成と高齢化—2000年世界農林業センサスによる統計的把握—

京都大学 松下幸司

京都大学 吉田嘉雄

京都大学 仙田徹志

森林所有者の高齢化が全国的に進んでいる。高齢化の結果、森林施業を自ら行うことはもちろん、保有山林の境界管理も難しい場合が増えている。森林所有者の高齢化、高齢な森林所有者の森林経営の全国的動向については、これまで十分に明らかにされてこなかった。

2000年以前の世界農林業センサス（以下、センサス）では、農業と林業が別々に集計されていた。世帯に関する情報は農業センサスに含まれ、高齢者に限らず山林を保有する世帯の状況は林業センサスでは分からなかった。2005年にセンサスの調査方法が大きく変更された。2000年センサスで「林業事業体」とは、保有山林面積1ha以上（実査は林家の場合3ha以上）となっており、一定面積以上の山林を保有するもの全てが調査対象であった。2005年センサスでは、農業と林業が一本化されたため山林保有世帯の分析が可能になったが、調査対象に大きな変更があった。新たに導入された「林業経営体」とは、①保有山林面積3ha以上で過去5年間に育林か伐採、②保有山林面積3ha以上で2005年を含む森林施業計画を樹立、③委託で造林・保育、④委託や立木購入で200m<sup>3</sup>以上の素材生産、の何れかの条件を満たすものとされた。つまり、山林を保有するだけでなく、過去5年間に何らかの施業を実施したか、施業計画を樹立した場合のみ調査対象とされた。2005年センサスについては、保有山林規模別・地域別にみた年齢別経営者数構成比・平均年齢が分析され（興沼，2009）、2010年センサスについては、保有山林規模別・農業地域別にみた経営耕地面積、経営耕地の保有及び利用実態、販売金額による作物構成、農産物販売金額、事業種類が分析された（佐藤，2013）。しかし、2005年以降のセンサスでは山林保有世帯の全体的動向を検討することが出来ない。

本研究では、2000年センサスについて、農業センサスと林業センサスを統合し再集計を行った。具体的には、山林を保有する農家（農家林家）と山林を保有しない農家（農家非林家）について世帯特性・年齢構成、農家林家については保有山林の経営状況を検討した。世帯特性にかかわる指標として、世帯員数、世帯構成、高齢世帯の形態、世帯主年齢、経営主年齢、後継者の有無、後継者の年齢を取り上げた。保有山林にかかわる指標として、保有山林面積、人工林率（人工林が保有山林に占める割合）、過去1年間の伐採・保育の有無、素材生産の有無、林産物販売の有無を取り上げた。

### [付記]

本報告の集計は、京都大学農林水産統計デジタルアーカイブ講座におけるプロジェクト研究の一部である。

### [文献]

興沼克久（2009）家族林業経営体の経営基盤と生産活動，餅田治之・志賀和人編著『日本林業の構造変化とセンサス体系の再編—2005年林業センサス分析—』所収，p. 60-100，農林統計協会。

佐藤宣子（2013）家族林業経営体の農業構造および農林業経営体による素材生産の実態，興沼克久編著『日本林業の構造変化と林業経営体—2010年林業センサス分析—』所収，p. 109-134，農林統計協会。